



きみよし/1931年生まれ。成人した一男一女の父親。聖書神学舎卒。センド宣教団協力牧師。長野県佐久市在住。

Q 私は最近、教会で父親の使命について教えられ、悔い改めました。

家族への愛情も表していなかったことを認め、妻に謝りました。努めて家庭での時間を作るようにしています。でも、彼女は私の言うことを信じてくれません。「どうせ三日坊主でしょ？」となじられてしまいます。今までさんざんわがままをしてきたことを思うと、反論もできません。彼女の言う通り、三日で終わってしまうかもしれません。でも、勇気を出して行いを改めようとしたのに、そんなことを言われては、せっかくの気持ちが悪く感じています。

A このご質問には、二つのことが含まれているのでは。

このご質問には、二つのことが含まれているのではないかと感じました。そう考えたほうが理解しやすいと思うのです。別個の問題が二つあるという意味ではありません。むしろ、この二つは深く関係し合い、表裏一体になっていると言ったほうがよいでしょう。

一つは、質問者自身の信仰生活、霊的成長の問題で、もう一つは家庭生活における適用の問題です。言うまでもなく、個人の信仰生活は、その行動と成長の過程において、必ず夫婦、親子の関係に反映してまいります。これは、切り離して考えるべきことではありません。どちらかを強調し、もう一方を無視することなどあり得ないことです。

質問者が心に深く教えられなかったのは、すばらしいことであり、自覚を与えられました。はっきりと心に悔い改めを決心された。家族に対して愛情を表すことが足りなかったと気がつきました。そのため時間を費やそうとしておられ、勇気を出して奥様に

お詫びまでなさいました。正直なところ、私は敬意を表したいと感じています。

ところが奥様の反応は、まことに冷静でありまして、出鼻がくじかれて終わったようであり、私も「あまりよい応答の仕方ではない」とは思いますが、ここで奥様を批判的に見るのはやめましょう。なぜかと言えば、その遠因は結局、夫である質問者にあるからでして、それも質問者自身がよく自覚していらいっしやるからであります。結局は、今までの自分のやってきたことの報いでもあり、あるいは、決心して始めながら途中で投げ出したりしたような前例がいっつかあったようです。振り返ってみれば、程度の違いこそあれ、人は誰でも大なり小なり、途中であきらめてしまう傾向を持っているのではないのでしょうか。

ですから私はここで、質問者を責めたり、ましてや奥様の応答の冷静さを不満に思ったりしないほうがよいと思います。むしろ、奥様の心は主に一切お任せし、夫として父としての責任を果たすために

に、反論もせずあらがいをせず、めげないで自分自身をどう励まし、どう努めていったらよいかを考えるべきだと思っております。

1 すばらしい決心です

まず、質問者には、自分が決心したことはすばらしいこと、大切なことだという確信を持ってほしいのです。男性が夫である自分、父親である自分の責任と使命に目覚めることは最重要事です。しかも、それこそクリスチャンにとつて家族に福音を証しする方法となるのはありませんか。次の聖句を心に留めましょう。

「あなたがたのうちの良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを堅く信じているのです」(ピリピ1章6節)

ここに三つのことが明らかです。決心なきことは、神の前に良きことです。決心は、自分の悟りだけではなく、主なる神が導き教えてくださったことです。そしてそれは、必ず完成に至ると約

束されています。

「ご自分で「三日坊主で終わってしまうかも」とおっしゃいますが、人間は疲れやすく倒れやすいものです。しかし、「主を待ち望むものは……鷲のように」(イザヤ40章31節)と約束されています(イザヤ40章31節)。三日坊主の汚名を返上し、それによって自分が賞賛されるのではなく、神のみわざを自分も経験し、主を証しできる絶対機と考えると、ではありませんか。

2 新しい自分を信じる

生まれつきのままの自分自身(肉なる我)を基準にして考えることをせず、主により頼む時に与えられる新しい自分自身を基にして考え、行動するようにしましょう。誰でも、主イエスを信じつつ、新しい決心をするなら、神さまは新しい生命を注いで再創造してくださるとはつきり約束されています。生まれつきのままの古い自分に従って努力しますと、失望落胆に終わるか、成功しても誇りや自惚れに陥る危険性があります。そつでなく、常に謙虚さに立ち返り、結果を主に感謝して、栄光を

自分でなく神にお返しすることを覚えましょう。

「主を仰ぎ見れば古き我は、現世とともに疾く去り行き、我ならぬ我の現れ来て」(賛美歌355番)

生まれつきのままの私でなく、神さまから与えられた新しい私すなわち「我ならぬ我」に気がついてください。

3 完全でなくてよい

完全主義から自由になるべきだと思います。生命あるものの成長を考えると、倒れることも転ぶこともあり、失敗しても希望を失わず、主を見上げてすがりつきましょう。また立ち上げられるはず。みことばとその約束のすばらしさを見つめ直し、再度踏み出していくべきです。そうすれば、一歩後退しても二歩踏み出すことができるでしょう。それでよいではありませんか。

4 一度「いいえ」を

一度に全部でなくてよいのです。よい夫また父親になるため

にやるべきことはたくさんあります。一生かかっても終わりはありません。ですから、身近なところから少しずつ、そして続けていくようにすればよいのです。具体的に考えてみましょう。

5 祈りの友を持つ

一人でも主とともに行動していきますけれど、質問者は、すばらしい目標に気づき、それに向かって歩もうとしているのですから、誰か一人、祈りの友たちをお持ちになればと思います。これは絶対条件ではなく、「もし許されるのなら」といった意味です。相手の徳を建て上げてくださるような良い友が与えられると助かります。祈りととりなしの交わりの中で、どれだけ大きな励みや知恵を与えられるか分かりません。たまにそのような方が家に来てくだ



質問募集

編集部では、皆さまからのご意見や感想をお待ちしています。

また、皆さまからの内藤師への、家庭生活に関するご質問やご相談をお寄せください。

採用された方には、記念品をお送りいたします。

home.office@ffj.gr.jp
TEL&FAX045-933-3875